

# 学校のイイトコ見つけ!



## 稲沢東高 (稲沢市)

ミカンの缶詰を食べるときのBGMは、ロックよりもクラシックがお薦め!。稲沢市の稲沢東高校の生徒たちが昨年、地元の名古屋文理大と連携し取り組んだ「味覚とBGM」の実験。同校の生徒百人を被験者にクラシック音楽とロック音楽を順に流した部屋でミカンの缶詰を食べてもらい、大学の機器で解析した結果、クラシック音楽を流したときの方が酸味を強く感じず、甘みがあつておいしいという結果が得られた。

「テーマに沿って検証し、結果を出すという実験を自分たちでやれたことがとてもよかった」。実験材料にミカンの缶詰を提案する

### 大学と連携し理科の実験

# 発見から面白さを知る



茶に含まれるカテキンの濃度を調べる生徒たち「稲沢市の名古屋文理大で(同校提供)」

など中心的な役割を果たした三年生の樋口翔さん(心は充実した表情。デー夕の分析を担当した三年生の松本瑞基さん(心も「BGMによって、味覚の中でも酸味が一番はつきりと差が出た。理科には予想を裏切る楽しさがある」と話した。

理科の面白さを伝えようと、同校は二〇一二年度から理系の二年生を対象に名古屋文理大と連携して研究を深める授業に取り組んでいる。大学で実験したり大学の教員が高校で授業をしたり。生徒たちは、白衣姿で大学の高度な機器を扱う実験に「専門的で興味があ

く」と意欲を見せている。一、二年度、一四年度は、理科系科目への興味を促す文部科学省の「サイエンス・パートナーシップ・プログラム(SPP)事業」に、本年度はSPPに替わる「中高生の科学研究実践活動推進プログラム」に採択。国の支援も受け、生徒たちが自分で課題を見つけて研究を深めている。

本年度は、体の筋肉や体脂肪と食物との関係を調べる予定。これまでに特殊な機器で測定したり緑茶に含まれるカテキンの濃度を調べたりした。

担当する理科教諭の門口ますみさん(心)は「大学などの専門機関と連携することで、よりサイエンスの面白さに気付いてもらうことはもちろん、実験を通して結果を得ることで自分に自信がもてるようになった生徒もたくさんいる。充実して学ぶ姿が見られる」と胸を張る。(花井康子)